

# 町史

## とっておきの話

212

南相馬市博物館学芸員 稲葉 修

### 只見とっておきの魚たち ②



只見町の魚は、イワナです。「家の脇の用水路にいる!」「クラスの友だちと釣った!」「民宿の夕食に出る!」。都会の釣人あこがれのイワナも、只見町ではごくありふれた魚です。しかし、このイワナ、只見町では実は絶滅している可能性があるので。

「うそだあ、田子倉湖にたくさんいる。小魚を食べて60センチ以上になる大物もいるよ。確かに只見町にイワナはたくさんいます。でも、ここでいうイワナは、ずっと昔から只見町に住んでいる只見町在来の(天然の)イワナのことです。」

イワナについて簡単におさらいしましょう。サケ科の魚イワナは、日本では北海道から本州に分布し、斑点の大きさや色の違いなどから、地域によりアメマス、ニッコウイワナ、ヤマトイワナ、ゴギに分け

られます。本州の多くでは水温が低い山の谷川に住み、昆虫やカエルなどの小動物を食べています。北海道や東北北部などの川では、河口近くまで水温が低いため海の近くにいたり、海に降りて魚を食べべ全長80センチになるイワナもいます。

さて、只見町内で釣ったイワナの斑点の色や大きさを観察された方はいませんか。現在釣れるイワナと昔釣れたイワナとでは、斑点の色や大きさに違いはなかったでしょうか。そうなのです。現在釣れるイワナの多くは養殖して放流されたイワナで、その大半が体に(釣上げたイワナの)瞳の大きさと同じか、それよりもやや大きい白点があるアメマス(別名エゾイワナ)なのです。しかし、只見町周辺の南会津町(旧伊南村・旧田島町)や三島町、柳津町などで養殖イワナを放流されたことがない沢のイワナを調べてみると、体に瞳よりも小さい橙色斑点があるニッコウイワナが生息していました。このことから、おそらく只見町はニッコウイワナの生息する地域に

含まれ、もともと生息していた在来イワナはニッコウイワナであったと思われます。はたして只見町に在来イワナが生息しているのでしょうか。2011年時点で、残念ながら筆者は確認していません。

只見町では、1970年代(昭和50年代)以降、養殖され品種改良されたさまざまなタイプのイワナが、只見川や伊南川、そして流域の沢の源流に放流されてきました。その結果、昔からいた在来イワナと養殖イワナが混じり合い、只見町から純粋な在来イワナが姿を消してしまったものと思われます。在来イワナはその地域の自然の歴史とともに大昔から歩んできた生き物です。研究の面だけでなく、お金では買えない地域

の大切な財産でもあります。ただ、只見町の在来イワナであるニッコウイワナがまだどこかに生息している可能性もあります。ぜひ見つけていただきたいと思っています。



只見川水系で確認されたニッコウイワナ